

Moon

満月の夜でした。空高く、白くまん丸な月が、堀より高く、大きくのびたすすきにささえられて、静かに輝いていました。森では、狼がその月に向かって遠く吼えていました。湖のほとりの古城では、囚われのお姫様が、月を眺めて、涙していました。ドラキュラは棺の蓋をそっと持ち上げて、辺りを伺っていました。

その夜は、言葉にすれば、魔法にかけられた夜でした。それは、まるで、何か、静かな息づかいが聞えてくるような、何ものか、この世のものではない、何かの気配が満ちているような夜でした。

その夜に、奏でられ、満月の夜空まで届けられた音は、そんな夜にふさわしい音色でした。それはまるで、すすきの野の片隅でうなだれ、しおれていた小さな花までもが頭をもたげて見上げ、その音色に耳を澄ますような、あの世からその音色に見せられた蝶々が、地上に舞い降りてくるような、そんな音色でした。

あの満月の夜に、ミルクホールで奏でられた、琵琶と尺八と、そしてその人たちから止めどもなく流れ出した音楽は、そんな魔法にかけられた音色でした。

その演奏は、琵琶、の音にならない静かな響きから始まり、尺八の低く重い音に引き継がれ、歌い、奏で、響き、鳴る……次から次へと溢れ出る思いが込められて、夜半まで続いていきました。

そして、最後には本当にどこからともなく、蝶々が飛んできました。暗闇の中、人から人へ、ひらひらと音色の中を漂っていました。

それは、たぶん、あの日、旅立ったあの人、それは、たぶんここで又お酒が飲みたかったあの人、それはたぶん、貴方とこの世界を愛したあの人……

あの夜の音は、音と音との出会い、長い時の交わり、そして、現つに生きる人々と、幻に消えた人、そして、南無……この世と、あの世の、すべてのものとの出会いの音でした。

不思議な、何かを、一人一人に残し、その夜の音色は、永遠に消えて行きました。

2008年 10月15日 満月の夜のライブ ミルクホールにて



鎌倉の猫事情 第七十九話

COLUMN



あの夜の騒動の一件があってから、しばらく茶トラは息を潜めていました。茶トラはもともと、この家が気になってしょうがなかったのです。以前、うちの大きな窓に四肢を広げて張り付いていた事も、先日の晩、壁を空中でぐるぐる走り回っていた事も、なんとしても、この家を覗いてみたい、すきあらば入ってみたいという、好奇心と、執念の念力のたまものなのでしょう。いくら猫が身が軽くても、痩せたとはいえ、今でも茶トラは見たところ体重6キロ以上はありそうです。最盛期は8キロはあったかもしれません。それにしても逃亡中の身、どうしたことだろうかと、案じていました。すると、すぐ姿を現しました。ミルクホールの裏手に看護婦さん達の寮として使われている古いアパートがあり、その一階と二階のバルコニーの間に少し隙間があるのですが、そのあたりから、「ナァーゴー！」「フウッ！」と、猫の唸り声が聞えてきました。ミルクホールのスタッフ達は、そんな声の聞こえと、野次馬根性も手伝って、すわっと駆けつけてグーニーを助けに行くのです。その日も「どこの猫だ！？」と見に行ったのです。すると、最近この辺りをうろつき始めた、野良で流れ者の黒猫と、茶トラがその屋根とバルコニーの隙間でにらみ合っていたのです。グーニーでない事が分かってよかったのですが、その日お天気にも関わらずあまりに店が開だったので、その成り行きを皆で交代で見守っていました。二匹は唸りあうものの、決闘には至らず、始め2メートルくらいだった距離を段々と縮めて行き、2時間くらいかけてその距離を数十センチまでしたようです。どうも茶トラの方が積極的だったらしく、しばらくその距離を保ち、互いに座り込み腕組みをして長い間見合っていました。そして、その均衡を破り、もう一步と、茶トラが近寄ったその時、ついに両猫立ち上がり、前足でお互いの顔面を滅茶苦茶にパンチし合い、逃げ去ったそうです。これは2時間かけてついに全てを見ていた君の目撃談です。「あいつら、本当は仲良くしたかったんだろうなあ」と、大笑いして、その後何日も思い出し笑いをしていたほどですが、2時間も猫の喧嘩を眺めている方も可笑しいと言うものです。でもまあ、それで茶トラがまだ元気だと分かったのです。が、その数日後今度は屋根の上でただならぬ声の聞こえてきました。私が慌てて窓を開けると、グーニーと茶トラが、「ギャアア〜」とすごい声を上げながら、転げ落ちていくのが見えました。そのただならぬ様子に私とSちゃんが、必死に声の消えた車道のほうへ駆けつけると、そこにはもう、両猫の姿はなく、アスファルトの上にはただ、喧嘩で抜けた大量の猫の毛がふわふわと、舞っているのです。私達は驚いてその毛を拾って見てみると、どうも茶トラの毛のように見えます。抜けた毛の量から見て相当な怪我をしたはずですが。グーニーは無事なんだろうか？……と、不安に立ちすくんでいると、近くで工事をしていたらしい男の人が、にこにこしながら私たちの方へ来て、携帯電話を差し出して見せてくれました。満足そうに見せてくれたその画面には、グーニーと茶トラが激しく組み合っている姿が、はっきりと、映されていました。



「この猫達なら、この後あっちへ行っちゃよ」と、コインパークを指差して、教えてくれました。
to be continued



PARIS

LIVE

Milk Hall

十一月のライブ

by HALF MOON
11/22 Sat.
19:30~

琢磨 仁
 琢磨 啓子



HALF MOONは、愛と平和を歌います
 ミルクホールのBAR TIME を
 ライブでお楽しみ下さい。

鎌倉の夜はミルクホールで
 DINNER とお酒のひと時を
DINNER SET

オードブル サラダ
 メイン ディッシュ
 パン or ライス
 デザート
 コーヒー or 紅茶

DINNER TIME
 PM 5:30 -- PM8:00
 ¥2200 ~

Information

「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールタイムス総集編

ミルクホールタイムス創刊号から100号までを編集した
 ミルクホールタイムス総集編。
 現在連載中の「鎌倉の猫事情」、初回から前編終りま
 で掲載しています。 ¥1800

ミルクホールタイムス
 定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日の定期刊行致してい
 ます。定期購読ご希望のお客様には、毎月25日に発送
 致します。メール、FAX、お葉書などでお申し込みを。
 年間定期購読料 ¥1500

HISTORY

KAMAKURA

場所の記憶 30

ミルクホールのルーツ 16

私は昭和31年、名古屋で生まれました。戦後10年が、経っていました。そして、今この鎌倉に住んでいます。かれこれ25年になります。それが不思議でならない事がよくありました。通りでふと足を止め、見知らぬ町並みを見上げて、『今どうして、私はここに居るのだろう』と、とても奇妙な気がする事がありました。そして、その見知らぬ町の、見知らぬ人々と暮らすうち、時々、古くから知っていたかのような顔に出会うことができました。そう思って、通りを眺めると、随分昔に住んでいた故郷のように見慣れた風景に見えた事がありました。古い知己のように、見知らぬ人々と話すうちに、今まで知らなかった色々な事を知りました。この家の人、先代の事、そのまた先代の事、そのまた先代の磯見ワカさんの事。動乱の幕末の世に、新潟に生まれ、明治の東京に行き、そして一人この鎌倉に辿り着いて、磯見旅館を開いた女性がいたこと。時代が大きく狂い始めた第二次大戦中に、中国に渡り、青島で人生を切り開こうとした先代の人達が居たこと。その人達もきっと、異国の空を見上げ、見知らぬ町や、海を眺め、『今どうして、私はここに居るのだろう』と、何度となく思ったことでしょう。人が皆生まれて来たことに意味があるように、その土地や、場所にもそこにある大きな意味があるのでしょ。私はまだ、先代の人達が生き延びた、震災や、戦争や、混乱を知りません。飢えや、死の恐怖も知りません。けれど、少しずつその時代を生きた人達の心細さや、喜びや、どのような時も生きようとした勇気が、分かりかけてきたような気がします。そして今は、その人達全てが、私の故郷だと、思えるのです。

次号へ続く



ミルクホールオリジナル 和の小もの



37 下りふじ
藤の花の模様化。したがって藤の花の咲く頃にかざられる柄。帯にもきものにも使える。

つくり帯
半衿・帯揚げ
くるみボタン
かんざし

✂ インテリア テキスタイル

表・ちり緬・お召し・銘仙
裏・大島紬・塩瀬他
L 180cm~

¥12000より



18 たきしま
一方から段々に細くなり滝水の落ちる感じの縞。色彩が段々薄くなつてゆくのを夜明け縞。

✂ 半衿・帯揚げ 刺繍入半衿

鹿の子絞りや、ちり緬、お召し、銘仙など、昔の着物の生地で半衿に仕立てました。

また、夢二デザインの半衿に習い、ミルクホールオリジナルデザインの、刺繍入半衿など。少し奇抜に見える半衿も、渋い着物を一層引き立てることも、上級編に挑戦してみては？

半襟 ¥500より
帯揚げ ¥800より



✂ かんざし とんぼ玉かんざし

ミルクホール製
くるみボタン
くるみボタン ¥100より
くるみボタンのコーム

花のかんざし ¥2500より
木のかんざし ¥1800より

✂ 古布

使い方色々、長尺物や小さな端布のアラカルトまで。1メートル1000円ほど。

端布組み合わせ
¥300より

✂ 帯・ つくり帯

大正・昭和のアンティーク名古屋帯
ミルクホールのオリジナル半幅帯やつくり帯など
つくり帯は簡単に結べて時間のない時に便利是非お試し下さい。

半幅各種 ¥2000~
大正・昭和名古屋帯 ¥3800~

✂ アンティーク着物 大正・昭和の秋の着物入荷

着物は新しく仕立てると高価なものですが、古着は驚く程安価に揃えられます。特に初心者の方にお勧めです。まず、着て見ましょう

紬単衣・ちりめん・銘仙・お召し・小紋
琉球紬・久留米餅・大島紬・など



... ANTIQUES

伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク



♠ 和洋家具

明治初期の衝立
大正時代京筆筒 三段
大正時代ガラス水屋
昭和初期丸テーブル
明治・大正時代小筆筒各種
昭和初期デスク色々
明治~昭和文机各種
大正時代ガラスケース



♣ 古陶磁

伊万里・古伊万里・
明治べろ藍・大正色絵等々

古伊万里染付鉢
幕末伊万里そば猪口
江戸期
明治銅版小皿
伊万里輪茶碗・そば猪口
古伊万里豆皿・なます
明治瀬戸石皿・鉢



◆ アンティーク

50'S 眼鏡屋ポスター油絵
額入り鏡各種入荷
ハート型額入り鏡
大正・昭和初期色ガラス各種
明治・大正のガラス各種
鉄製ディスプレイ用小物台
浮世絵ガラス絵入荷
レプリカシェード ¥5800より

♥ ミルクホールオリジナル
ミルクホールオリジナルグラス新入荷
ささめやゆきイラスト入り 5種
マグカップ・デミタスカップ・灰皿など



♣ 古民芸・骨董

大正時代鏡台入荷
道教の壁画 女人像
大正時代ランプ
北斎仏頭大理石
灯籠台天燈器
浮世絵硝子絵
アフォン石仏
古瓦各種